

わたしのこせいのよさ

河西小学校四年 水元 陽菜乃

わたしは、ほいく園やようち園のおむかえのときに、とし下の子と遊んだり、とし下の子の相手になったりするのがすきでいつも下の子とあそんでました。わたしは、四年生になって、こんなことを言われたことがあります。

ある日、いつものように弟のおむかえをついていくと、友だちの弟さんが一人でさみしそうな顔をして、ボールをけっていたので、わたしは、しつれいかなと思ったけど

「いっしょにあそぼ。」

と声をかけて、いっしょに遊ぶことで、声をかけてよかったと思いました。聞いた後は、弟さんとボールをけりあったり、すな場でいっしょにお城をつくったりしました。ときどき弟さんのボールが右へ転がったり、左へ転がったりしたときに弟さんは、

「ごねんね。」

といってけりなおしてくれました。わたしは弟さんにじょうずにいけないときがおおいからわたしはだめだめだなど思いながらしょんぼりしていると、弟さんはやさしく

「だいじょうぶ。」

と言ってくれたからわたしはしっかりしないと思いました。その

後は、二人でジャングルジムにのって一番上までいったり、すな場で、大きな大きなお城をつくったり、他の子たちを入れておにごっこをしたり、大きなすべり台にのったりしました。みんなでたくさんあそんだあとに、お友だちとお友だちのお母さんがきました。お友だちとお母さんは、

「弟をみてくれてありがとう。」

といってくれたときわたしはいっしょにあそびたかったただけなのに、なんでおれいをいわれるんだろうかと思いました。

このようなことからわたしは、わたしがとくいなことをみつけることができました。これからは、しょうらいのゆめはほいくしさんがいいなと思いました。これからも、下の子たちとたくさんあそびたいなと考えています。